

図表3-5-2 ▶Verio社買収契約調印



出所：NTT『NTTグループ社史 [1995-2005]』(2006年3月)

2000年5月、NTTコミュニケーションズは、既に10%程度の出資と役員派遣によって関与していた米国Verio社との間で100%買収契約に調印し、同年9月に買収(買収総額約55億ドル/約6,000億円)を完了した(図表3-5-2)。同買収により、NTTコミュニケーションズはグローバルでのTier1-ISPとしてのVerio社のIPバックボーン・ネットワークを獲得。これを国内のIPネットワークと接続することで、シームレスなワンネットワーク体制を構築し、高品質かつグローバルなIPサービスの提供基盤を確立した。

Verio社は、米国有数のWebホスティング事業者であると同時に、優れたeコマース向けアプリケーションを有していた。そのサービスとノウハウの獲得により、NTTコミュニケーションズのIPネットワーク及びプラットフォームサービス提供能力は大幅に向上した。結果として、多国籍企業から新興のドットコム企業まで、以下の先進的サービスをワンストップで提供する体制が整備された。

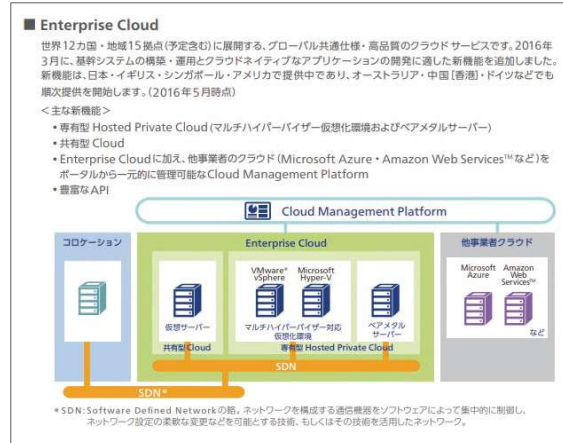
①グローバルなシームレス・バックボーンネットワークを活用したTier1クラスの高付加価値IPネットワークサービス(ネットワークマネジメントサービス)

②日本と米国を中心に、2000年12月時点で世界105拠点に配置されたインターネットデータセンターを核とするトータルアウトソーシング(コロケーション、各種Webホスティング)

③高品質で信頼性の高いECプラットフォーム

しかしながら、Verio社買収直後に米国経済が失速し、いわゆる「ドットコムバブル」が崩壊。NTTは2001年決算において5,415億円の特別損失を計上する事態に直面した。以降、NTTコミュニケーションズによるVerio社の経営再建には多大な労力と時間が費やされた。最終的には、2005年にホスティング事業のみをVerio社に残し、他の事業はNTTアメリカ及びNTTヨーロッパに営業を譲渡。2015年4月にはVerio社はNTTアメリカに吸収され清算されたが、グローバルTier1ネットワークという重要資産は確実に引

図表3-5-3 ▶Enterprise Cloud



出所：NTTコミュニケーションズ「Global Cloud Vision 2016」

き継がれた。

(3) クラウドサービスの強化

ネットワークインフラ面での強みを背景に、NTTコミュニケーションズは2012年3月にパブリッククラウド「Bizホスティング Cloud[®]」を提供開始した。同サービスは、Amazon Web Servicesに対抗すべく、Amazon互換APIを含む150以上のAPIを備えている点が特徴である。同年6月には、企業向けプライベートクラウド構築を支援する柱となる「Bizホスティング Enterprise Cloud (BHEC)」を開始(図表3-5-3)。BHECはフルレイヤーの仮想化技術を採用し、世界で初めて商用として仮想ネットワークを導入する先進的な試みであった。

(4) グローバル・クラウドサービス推進体制の強化

2011年10月、NTTコミュニケーションズはグローバルクラウド事業の方向性として「Global Cloud Vision」を発表した(図表3-5-4)。これを契機にNTTグループは、2010年代前半を中心に海外クラウド関連事業者の買収等を進め、グローバルでのサービス提供体制の整備を進めた。以下では、当時の主な取り組みを紹介する。

NTTは2011年7月、米国のクラウドサービス提供企業OpSource社のDimension Dataによる買収を発表した(買収額72億円)。OpSource社はクラウドの管理及び自動化技術において優位性を有しており、NTTとの先行投資及び提携関係を背景に、同社の技術力がクラウド強化へ寄与することが期待された。

さらに、2012年11月には、NTTが米国のクラウド関連コンサルティング企業Centerstance社を40億円で買収。Centerstance社の技術は、NTT i3が開発したクラウド移行支援ツール「m2cloud」に活用され、多くの企業に対する提案活動で効果を発揮した。なお、2015年5月にはCenterstance社はNTTからNTTデータに譲渡された。